

## 2007 FCJ シリーズ第5-6戦

### ■ 5月17日 フリー走行1日目 WET

今回のレースは前回のレースから1ヶ月半以上空いて行われ、今年初開催のツインリンク茂木で行われました。レース自体は1ヶ月半以上空いたのですが、その間にこのサーキットで合同テストが行われていたため走行自体は1ヶ月も空いておらず、しかも前回の合同テストでは WET コンディションの中、2位に1秒近くも離してトップタイムを出しており、今回のレースを心待ちにしていました。

そんな中始まったフリー走行1日目は WET コンディションだったのですが、走り始めてからすぐにトップタイムを出すことが出来ました。しかし徐々にコースが乾いてきたり、雨の量が少ない一瞬のチャンスでタイムを出したドライバーがトップタイムになったりと、前の周ではトップタイムだったのが1周走って戻ってくると10番手くらいまで下がっていたりと、ドンドントップタイムが入れ替わるような状況となりました。けれどそんな状況の予選があることもあるので、そのことも踏まえてトップタイムを目指して走りました。

結果はラスト2週の時点までトップタイムだったのですが、最後の周に他車にひっかかってしまい、帰ってきた時には4番手、そしてチェッカー後1周してピットに戻ってくると更に8番手まで下がって1日目の走行を終えることとなりました。

完璧な WET 路面での走行では何の問題もなかったのですが、徐々に乾いてくる路面などのときに、「いかにその路面の変化を感じることができ、1番ベストのタイミングでアタック出来るか。」と言うのがこれからの課題だなと感じました。

### ■ 5月18日 フリー走行2日目 DRY

この日は前日とは違って変わり、完璧な DRY コンディションでのテストとなりました。午前中のテストでは全車一斉に NEW タイヤを履き、予選を想定するにはちょうどいいセッションとなりました。予選時間15分というのも考え、走り始めてすぐにアタックを開始し、計測6周目には少しミスもあったのですが、トップから0.4秒落ちの5番手のタイムを記録します。そこからはタイヤのいい時を使ってしまったこともあり、中々タイムをあげることは出来なかったのですが、セッション後半に入ってもそんなにタイムを落とさず走ることが出来ました。けれど他のドライバーの中には後半でタイムを上げてきた選手もいて、結局この日は総合8番手で明日の予選を迎えることになりました。

DRY での課題は中古タイヤでのペースと後半に入ってからタイムアップが他の選手に比べて出来ないという所だと実感しました。

### ■ 5月19日 公式予選 DRY

#### 第5戦 23番手

この日は朝から雨が降っては止んだりとその繰り返しで、ハッキリしないコンディションだったのですが、予選が行われた時には完璧な DRY コンディションでした。前回の合同テストから課題だったブレーキの使い方と金曜日のテストでトップとのタイム差も少なくなったので、そこを意識して走り始めました。そして前との感覚をしっかり開けて、自分の走り出来るような状態でアタックを開始したのですが、先ずアタック1周目にはシフトミスをしてしまい、アタックをやめ、次の周に再度アタックしたのですが、今度は片輪をコース外に落としてしまいました。その後は残り時間のこともあり「どうにか1周まとめないと」と焦ってしまい、僕の悪いところがあからさまに出て、小さなミスを繰り返してタイムアップ出来ないまま、23位という順位で予選を終えました。

#### 第6戦 23番手

1回目の予選を終え、前日のテストからは想像出来ないような順位で終わったこともあり、「とりあえず落ち着こう」と自分に言い聞かせて予選開始の時間を待ちます。しかし第6戦の予選が始まって、中々順位を上げていくことは出来ず第6戦の予選も23位という順位でした。

具体的な理由としては課題だったブレーキの踏み方を直したことで、金曜日のテストがタイムアップしたこともあり、その意識のまま予選でもドンドソブレーキの距離だけを意識してしまい、立ち上がりが悪くなったことが原因でした。けれどその事を1回目の予選の後に気付かず、同じことを繰り返したのは自分の弱いところで、本当に直していかないと毎回これと同じことを繰り返してしまうと実感しました。

## ■ 5月19日 第5戦 決勝

### 第5戦 決勝 リタイヤ WET

2回の予選を終え、自分の悪かったところを確認して決勝に挑みます。そして決勝直前から空模様が怪しくなり始めたのですが、DRY コンディションの中フォーメーションラップが始まります。そしてしっかりタイヤを温めシグナルに集中したのですが、1台エンジンストールしたマシンがあり、スタートは再度やり直しとなります。しかしそのタイミングでドンドン雨脚が強くなってきて、スタート時間は少しづつ遅れていくこととなります。その間に DRY タイヤと WET タイヤの選択が各ドライバーで行われ、自分は服部さんと話し合った結果 DRY タイヤを選択しました。自分としては WET 路面での走行にはかなりの自信があったのですが、この日の雨は朝から降ってもすぐに止んでいたし、去年今回と似たような天気だった時に自分だけ WET タイヤを選択して失敗したことがあったので、それも踏まえた選択でした。結局スタートの時点では DRY と WET は半分以上くらいずつに分かれました。そんな中フォーメーションラップが終わりシグナルに集中して、いよいよ決勝スタートです。

#### シグナルレッド・消灯・スタート

タイミングは良かったのですが、この時には物凄い雨でホイールスピンの止まらず、スリックでの走行がとんでもない状況になっていることを実感しました。そして1周目から自分がわかっただけでも5、6台の車がコースアウトしていきます。そんな中、必死でコントロールして、2、3台を抜き順位を上げ、最終コーナーの手前である車の真後ろに付くことが出来ました。

するとその車はタイヤ交換のためにピットインしようと急に減速し、まさかピットインするとは思っていなかった自分はその車の真後ろにいたため、追突を避けてスピンしてしまいました。その後レースには戻れたのですが、そのまま走っても優勝はおろか、ポイント獲得も難しかったので、ピットインしてレインタイヤに交換し、ファステストラップだけ狙って走り始めました。最後の周にタイムを出そうと、ブレーキングポイントなど少しづつ詰めて行きファイナルラップに集中してタイムを出しに行ったのですが、ファステストラップにはあと少し足りずチェッカーとなりました。

やはりレインタイヤに変えての周回数自体もファステストのドライバーに比べると全然少なかったもので、ブレーキングポイントなどは中々詰められませんでした。しかし途中からでも全体の3番手くらいのタイムは出せたので、WET 路面での走行は更に自信となりました。けれどレース自体チェッカーは受けたのですが、周回数が足りなかった為完走扱いにはなりません。自分の絶対的な自信があった WET レースだっただけに凄く悔しい結果となりましたが、初めのタイヤ選択も自分が判断しての結果なので、全ては自分の読みが足らなかったと実感しました。しかし、このようなレースはこれからもあると思うので、またこの経験を次に生かしたいと思います。

## ■ 5月20日 第6戦 決勝

### 第6戦 決勝 19位 DRY

前日とは違って変わり晴れ空の中、第6戦の決勝は行われました。前日の予選での悪くなった原因をしっかりと把握し、今回のレースに活かそうとレースに挑みました。フォーメーションラップでしっかりとタイヤを温めシグナルに集中します。そしてシグナルレッド・消灯・スタート！

今回のスタートはクラッチを繋ぐタイミングが少し早すぎたのですが、1、2コーナーでポジションを2つくらいあげて3コーナーへ。しかし自分の目の前で多重クラッシュが発生。自分はどうにか避けることができ、順位を上げることに成功したのですが、そのままセーフティカーが導入されます。2周後にセーフティカーは解除されたのですが、自分はその時点で13位を走行していました。そしてしばらくは前も後ろも変わらないペースで走っていたのですが、リスタート5周目に自分がブレーキングで挙動を乱してしまい、横に並ばれてしまいます。そこからはコーナーをみっつ過ぎるまで並んで走っていたのですが、自分がアウト側になったときに前に出られてしまいます。しかしその周に今度は相手がミスをしてそのままヘアピンで外から被せて並ぶことには成功したのですが、そのブレーキングの時にお仕置きリミッターに入れてしまい、立ち上がりが悪く、引き離されてしまいました。そしてここから10周くらいは14位のまま走行していたのですが、残り2週の時点の最終コーナー前でイン側に飛び込んできたドライバーがいました。そのドライバーは完璧にタイヤをロックさせ、止まれないまま真っ直ぐ来たのですが、自分もなんとしてでも完走したかったため、イン側に2車線分くらいはあけ、コースギリギリでコーナーをクリアしようとしました。けれどそれでも相手の車は止まることは出来ず自分の車と接触。2人ともスピンしたのですが、自分はエンジンを止めてしまい、どうにかコースには復帰出来たものの、そのまま19位という順位でチェッカーとなりました。今回の接触自体には自分に非はないと思っています。けれどそういうことも踏まえて、それが嫌なら「予選からぶっちぎりで勝つしかない」ということもわかっています。今年に入ってまともなレースが出来ていなかった分、今回の接触は本当に悔しかったです。けれど今までは自分のミスで逆の状況になっていたこともあるので、自分も周りのドライバーもこんな悔しい思いをしなくてもいいようなレースをしたいと改めて実感しました。

とりあえず速くなります！

その為にも今回の予選のようにならないように、自分の持っている力を出し切れるような技術、メンタル面を作っていきます。

これからもご指導、ご支援の方よろしくお願ひします。

Team NAOKI with LE PRIX SPORT

吉田 広樹